

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

1166
14

• 0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

JAPAN
TAMURA

門 41
號 1166
卷

敬信三寶好人愛愍三物
慈仁勿疑報應大聖說
濟生即是福神



老々牛馬
救一人
福德の神

永海



三濟私話

予牛痘法を^{うま}作業^しと^り其^{あま}靈妙^{なり}牛^{うま}痘^は子^は存^ぞ在^るる^る成^り
穢^け乃^はを^ら子^は全^く是^は牛^の恩^を蒙^りり^て千^万兒^の痘^を
厄^を免^は色^し一^は先^の傍^に家^のに^は幸^を福^をを^らる^るる^る実^に！
謝^する^に何^のか^も一^は因^り今^は御^の牛^の恩^の万^一を^は報^を謝^{せん}
と^する^は志^をを^は發^を起^する^る也^{なり}

敬信氏曰義書

三濟私話

往々牛の一生涯を執るるに實は憐むべきもの
しやうざい 是より甚しきおとあらしき死を與ふ事あり
あつこ 往來し志なく牛方子鞭打されく血の汗を流し
あき 今く人生日用の爲り力を尽し骨を碎き國家の
むち 便利と稱す者この極子日と此粗食も志の如くは
あせ する事能はば備休息のともなるも罪人の獄中
あせ

傳られしるの如くかく苦しき年月を送り老く
あせ 後ら捨る廢られ様多の手に後り生たがら皮肉
あせ と剥がれ死すと写し世に功有て研も習た
あせ りはあつがはぬき終りを取らるる實は憐むべきも
あせ のなり憐む大ゆわく一人乃却て重罪よあふ
あせ 如くかつたをれあるりの外より又あつづくは又牛の

苦患を親て他の門苦の類を索するに世は不幸なり

極窮の家は生れ小兒衣類乏しく或は親を

奪われく苦ふべき人もおく或は困窮の上は母子と

もに病はかゝり乳食不足は救済なく強飢渴

至れども他人の乳を求むるの手たてぬく次第に

疲勞して強は餓死又隔るりは何れもより憂

智の若くは形ちの如く苦くくを受る是も中々

るるに愚のびざる所あり成人より困窮は迫るも

多くは生を好むより自ら招くものあり愚智の小兒

は其類は何れも憐れむべき者なり○又これ又此きん

馬なり是又世乃宝ありて貴賤をり而して王侯は召れ

一時蘇生を受けざるは又はる事御も邪曲なり

忠臣の君子仕ふる如きも老衰^{とせ}と事りても下民^{うきもの}の
 手子^{てこ}落ち駒馬^{こま}とありて日々の食糧も以て其の半^{はん}も
 満多^{みんた}は渡勞骨^{わたらうぼね}立てて力を勞さるるは是亦^{これまた}入るに思^{おも}
つれなきおせまこと
 びざる有りさぬも今^{いま}幾^{いかに}うに及ぶまも其使^{つか}後^{あと}や
年一ぬ
 むる所^{ところ}一^{ひと}世の生^{なま}類^{るい}さぬ一^{ひと}有りといひても此^{こゝ}の物^{もの}の
 如^{ごと}く御^ごも替^かたうくして生^{なま}苦^{くる}患^{うれ}衆^{しゆ}人^{にん}よりても甚^{こゝろ}こ—

きら^ああ^あト嗚呼^{あゝ}其^{その}の^{こゝ}れ^{もの}の^く苦^{くる}る^に志^しの^むぢ
あゝ
 さ^あ家^いと^あめ^あの^あま^あん^あ今^{いま}世^よに^あ若^{わか}と^あ若^{わか}子^こを^あ
 合^あせ^あは^あら^あの^あ若^{わか}苦^{くる}と^あ抜^ぬき^あま^あと^ああ^ある^あを^ああ^あ
 む^あこ^あと^あを^あ驚^{おど}ふ^あ○夫^{おつと}抜^ぬ苦^{くる}と^あ樂^{たの}の^あ道^{みち}も^あ苦^{くる}苦^{くる}行^ゆの^あ道^{みち}
おつと
 備^あの^あよ^あう^ああり^あされ^あば^あ苦^{くる}と^あ抜^ぬき^あ樂^{たの}と^ああ^あん^あの^あ世^よも^あ種^{たぐひ}
あゝ
 有り^あとい^あは^あも^あ苦^{くる}と^あ抜^ぬき^あ樂^{たの}と^ああ^ある^あは^あ物^{もの}も^ああ^あ

處うへに故よ是よ慈悲をわらふ人も善根の中の大善
ぜんぜん
 根あるべしあるべし必神佛喜ひし守護し玉
まもり
 ひ天地感しし福徳を加給したまふべしこれ故に
あま
 力を合せむと一ありし此之物の極苦を救助せん
すけい
 り成程のふ日志の仁人道路よ牛馬の疲しうん成
を
 見たらん時を併あるひん胎の一を絶しあふも其
あま

功徳少うしうさるべし○困窮の児に衣食を絶を程の
くどく とまる あまのいさ
 りの富貴なる人よその一方の遊樂を禁止し其費を以て
とち ひん そのい やめ しつ
 以て惠を成なる人よ其を児の二に業を成るすとの業育
あま そのい
 らを心安くやしむし下是の雨より出るも其ら
あま
 亦不返るの聖語の如くみくいより一家门留業の
そのい
 根中とをるべし○富貴を濟する人榮耀停華の為
あま わこ あま あま

三浦和言

五

千金ちんぎんをもも費つするより多くして空をを意惡の道より向
 け用ふる時も即ち天地の化育を贊する好生の仁德を
 おるより亦も積善の餘慶を以て家運永久必然な
 らん○魚魚の放生もよらしされど放生する魚
 魚を賣らんが為りし魚り野て渡世とする者多く
 成ん熟る時も夫も為り苦を受けしめ且ち野を

中に死するも何も一つれば其功徳少からん去
 りたりし魚をの常に海山野に在て自在
 子遊樂するものあれを牛馬の如く生涯極苦よ
 終るものと同し悔ま何もさらず一○身貴法
 人多くの有を閑然と楽しむは是其性を苦し
 むつら有りを以て假令金銀の籠のうちに

二千人

六

在り坐りども何ぞ樂しとせん必は主を怨の念

うきまに

を

を

を

何ご一故に生家多し不祥の災ある事世上の現徳

ふま

を

を

を

少なきに故に是を放つ時自由山野を遊戯し

ま

ト

の

を

善い大なる一量に主の恩恵を思ひてんや若くは

ぬ

を

後来何ふ所の身を放てて生業を以て右に物の極苦

ま

を

を

を

を救ふたまりに放つ処の苦なる所は物ともふ

ま

を

を

を

を

極苦ふ所の恩を蒙り別ふ費を加るに何ご

を

至仁の善道ありし行を家とりて是只公のむけ

を

を

方よりて身の内を樂むを左右するの

を

を

○京都姉小路寺町橋居坐老人二十年より先

牛を養ふるに公力を以て數百の老牛を慈愍を

加へ救助せりとは善根の志ありしむる愛とんを

齡八十子近られども健康子〜〜家差富業繁昌せり
是尚今目前の現境なるべし

○亦も世とツの物を救済せんと思するは志ありと

い〜も身賊〜〜賊〜〜これバ終子一二の小兒或一二

の牛馬の外ハ力の及ぶざる所なり是獨自冥々の中

に天恩子砂也つ小仁よふ當る〜これと懐ら〜い〜

或三少あり〜大仁を施すよ思〜は是に於て善く

世法仁人君子の慈心を慕ひ救済の窮兒老牛馬

を接済するものせりねまらんを欲する所以なり

○太上感應編曰夫心起於善善雖未為而吉神已

隨之或心起於惡惡雖未為而凶神已隨之近來此語

の確實なるものを感得せりやいま〜善するの爲すに

三年八月

あゝ只善事を為さんて欲するは念意行るのそ

然るに即古神の己子隨ふ冥助みや開業以來既り

十有三年些少は禍もなく亦予が解質為弱みして

屢病を發し危篤の志をかゝるといども皆に快復し

且の衣食に困せしごとく起居安泰あり是亦いひて

善を成すに由らされども只他生を利せんと欲するの

こころ

いふをりてうら

うぬれつていひやうしん

せんまひ

あやうき

志を存するのそあゝ己お祓佛の加護を蒙るもの

あるべしつらゝ親族朋友知己の人乃上を敬るべし

凡十年を過る中みな家子死亡有るはり或は水火の

災はかま或は一家和合せし或は子たゞ或は災

彼を患ひたれは是に禍ひあるものなり今予が如く

一も憂患をかきもの其少なり是然る所以の徳

なく不学ふ才ありては業とする所の樹も亦拙へた酒
 ふうに此の如く僥倖の幸福有るを今日を送るに一も
 我が**かぶ**何れに^{かぶ}神佛の加祐かぶしあるをいかに顯著しやくしやく
 するの理を根ねに微まし量る信感戴の餘聊さう神祕しんひは
 謝せむが為ために世に物ものの救苦を祈る志を起おこす一端
 抑感應の理の人のよく知る所ありといへども今日記

の現証を述べて假令予が如きふ才無能の身みみても
しやうこ
 神佛を為信する時ときにかく僥倖の幸あきひ有り又學術
おもむ
 才能人たに勝過たるも神佛を為信せざる人ひとも必
 福ふくの得るべしといふの明理を述ふ今日人智ち者然
むね
 の理を以てり人時ひとときも才學勝過する人も必その家
 福業ふくごふなくすんんの有あるべし然るに世上を觀るに才

三才人舌

一

学問の人も不幸なるが多し〜却る僕も如き

不肖の如き今日も勢い多かる所の牛痘法の如き

其^い徳^いと客^いの如^い〜必^い医^いの巧^い拙^いより

何^い〜且^い一人^い妙^い手^い〜わ^い〜る^い〜何^い〜

予^いが門^い子^い市^いを^いあ^いけ^い〜や^い實^いに^い思^い儀^いは^い〜

ざる処^いなり^い是^い全^いく^い於^い暮^い神^い佛^いの^い祈^い念^い〜我^い拙^い劣^い

ふ熱^いの^い罪^いを^い懺^い悔^い〜於^い〜療^い病^い保^い活^いなり^い牛^い痘^いは

併^い發^い又^い他^い症^いの^い患^いを^い〜健^い全^いは^い長^い育^いを^い〜

る^い殘^い影^いひ^いか^い〜祖^い先^いの^い忌^い日^いを^い祭^いる^い〜情^い〜

此^い感^い應^いなる^い〜熟^い女^い函^い冥^いの^い妙^い理^いを^い教^いる^い〜人^い力^いの

及^いぶ^い〜さ^いる^い〜交^いは^い〜若^いく^い貴^い爵^いの^い道^いの^い存^いを

る^い事^い坐^い〜視^い〜熱^い〜識^い〜さ^いり^いは^いあり

寧ろ小幸福を求むる道ハ惡を断ち善を好む
さいさい
 人々欲し而して神佛の殊教を受すよりの好
ありむべし
うま

嘉永甲寅四月

溪川萬年稿 悲願

三濟私話畢



